令和5年10月　第63号

森林ふれあい情報

林野庁中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター
〒397-0001
長野県木曽郡木曽町福島5473-8
TEL:0264(22)2122
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

今年の夏は暑さが厳しい日が続いたものの、雨天の影響は少なく各種行事やイベント等は熱中症対策にも配慮しつつ順調に開催されました。コロナ禍で開催が見送られていた木曽地区みどりの少年団交流集会も４年ぶりの開催となりました。

赤沢自然休養林を活用した信州大学の演習に参加

７月２１日（金）、木曽郡上松町の赤沢自然休養林（以下、「休養林」）において、信州大学農学部の森林生態学演習が行われ、当センターと木曽署の職員が講師として参加しました。

説明を受ける大学生

中部局と信大農学部とは人材や資源の活用を図りながら人材育成を促進することなどを目的とした「中部森林管理局と信州大学農学部との連携と協力に関する協定」を締結し、様々な活動をしています。今回は、その一環として国有林のフィールドを活用した演習が行われたもので、学生31名が出席しました。

最初に休養林の概要と木曽ヒノキ林の成り立ち、休養林がエリアの一部に含まれている「生物多様性復元地域（愛称：木曽悠久の森）」の取組などを説明し、その後、班に分かれて休養林内に入り、森林構造や木曽ヒノキ等の天然更新プロセス、立地環境について観察してもらい、学生主体のグループ・ディスカッションを行いました。

学生からは、「木曽ヒノキ林といっても、サワラや広葉樹も生育するなど、多様な森林構造を持つことが観察できた」「天然更新している樹種はヒノキよりアスナロが多いことに興味が持てた」といった感想が聞かれました。

ふれあいセンターで地元高校生が就業体験

当センターの地元にあります木曽青峰高校から「木曽森林ふれあい推進センターでの就業体験を希望する生徒がいる」との相談があり、7月25日からの3日間の予定で2年生1名の就業体験を受け入れました。

生徒は植物や動物が好きで当センターに興味をもっていたため就業体験を希望

したとのことでした。

体験初日は国有林の役割や当センターでの業務について説明した後、赤沢自然休養林へ向かい、木曽ヒノキを中心とした森林状態の観察とパズルラリー（ふれあい情報６３号参照）の資材入替え等の業務を体験しました。休養林では４時間以上も歩きましたが疲れた様子もなく元気な生徒の姿にセンター職員も驚いていました。

２日目は木曽地区みどりの少年団交流集会へ職員とともにスタッフとして参加し、クイズ形式での森林学習では少年団の子供達たちに声を掛けながら一緒に答えを考えていました。

パズルラリー用紙箱を確認中

３日目は、ニホンジカ被害対策のため南信森林管理署管内で開催された小林式誘因捕獲方法検討会へ参加し捕獲方法を見学しました。その後、場所を移動して高山地域におけるニホンジカの生息状況調査のために当センターが設置しているセンサーカメラのデータ回収とデータ解析を行って、３日間の就業体験が修了しました。

学生からは「短い期間の中で、体験したいと考えていた内容が盛り込まれていて大変参考になった。これからの将来に役立てたい」との感想をいただきました。

いつの日か、国有林の職場でお会いできる日を楽しみにしたいと思います。

木曽地区みどりの少年団交流集会に参加

200 グラムの丸太切りに挑戦する団員達

木曽地区のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑を愛する豊かな心を育むことを目的とした木曽地区みどりの少年団交流集会が、７月２６日（水）に長野県みどりの少年団連盟木曽地区協議会の主催で開催され、当センター職員２名と就業体験の学生１名が技術指導で参加しました。

この交流会は木曽地域の町村で毎年開催されていましたが、新型コロナ感染拡大の影響で中止が続き、４年ぶりの開催となりました。

今年は木曽町「木曽駒森林公園」を会場に木曽地域の１１の少年団、引率教員、主催者、指導者等を含め約１４０名が参加しました。当日は代表として４つのみどりの少年団による活動発表後、10 班に分かれて名札の作成及び自己紹介のあと、森や自然、木曽五木等に関するクイズラリーを行いました。

午後は雷雨予報の影響で開催時間を急遽短縮することとなりましたが、みどりの少年団の子供達にとっては良い交流の場となりました。

木曽郡の学校は長野県の中でもみどりの少年団の結成率が高い地域とのことであり、今後もみどりの少年団活動に協力していく考えです

教職員を対象とした森林・林業学習会の開催

説明を受ける参加者

木曽郡内の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を８月２日（水）、木曽郡木祖村小木曽国有林の水木沢天然林及び木曽町の御料館（旧帝室林野局木曽支局庁舎）で開催しました。

この学習会は、小・中学校等の教職員を対象に、国有林を主なフィールドとして森林・林業に関する学習会を開催することにより、森林・林業の役割や森林環境教育の重要性についての認識を高めていただくとともに、学校教育の中で森林環境教育が積極的に実践されるようになることを目的に、長野県との共催により平成１４年度から実施しています。

今回は木曽郡内中学校教員１名と関係者４名の参加がありました。

水木沢天然林における森林散策は今回が初めての企画でしたが、当センターと木曽森林管理署の職員がガイドしながら、針葉樹と広葉樹が混交した木曽地域特有の天然林を見学しました。

午後は林業遺産にも認定されている木曽郡木曽町の御料館（旧帝室林野局木曽支局庁舎）に移動し、館内に展示されている貴重な林業資料や標本を見学しながら木曽町から派遣していただいた講師の説明を受け、木曽谷の歴史や林業の変遷について学びました。

みよし市友好の森ふれあいツアーで森林整備

間伐体験をする参加者

９月２日（土）、木曽町三岳地区において木曽川上下流交流事業「みよし市友好の森ふれあいツアー」が開催され、当センターから２名が参加し木曽地域振興局、木曽森林組合の職員と協力して間伐作業等の実技指導を行いました。

この「みよし市友好の森」は、元々国有林であった森林を、平成 3 年度および 11 年度に当時の愛知県三好町が住民の暮らしで恩

恵を受けている「木曽川水源地の保全」と「地球環境への貢献」、「環境教育の向上」等を目的に取得し、このフィールドを活用したふれあいツアーが平成 15 年から開催されているものです。

当日の参加者２６名は５班に分かれ、作業地に到着後ヒノキの間伐作業とクマによるヒノキの皮剥ぎ被害防止のためのテープ巻き作業を体験しました。

子供達への作業指導では何度もこのツアーに参加している方のお手伝いもあり、予定した作業は怪我もなく無事に終了しました。

ツアー終了後にみよし市から頂いたアンケート結果では、「木を切ることがとても楽しかった」「指導員の皆さんの説明がわかりやすかった」「木曽町にまた行きたい」との感想が寄せられ、指導を行った私達職員もこの木曽川上下流交流事業の大切さを再認識するとともに、今後も継続して取組んでいく必要があると感じました。

中央アルプスで植生復元作業を実施

９月６日（水）、上伊那郡宮田村の黒川国有林（木曽駒ケ岳）で、平成１７年から当センターが主体となって行っている植生復元作業を行いました。

この取り組みは、登山者の入込増加が誘因と考えられる踏み荒らしや大量の降雨、融雪水、凍結融解による砂礫の移動、強風等が高山植物の荒廃に拍車をかけていることから、登山道周辺の植生復元を目的に植生マットの敷設を行っています。

今年は、長野県上伊那地域振興局、駒ケ根市、宮田村、南信森林管理署および木曽森林管理署の協力を得て総勢２６名で作業を行いました。

当日の作業を迎えるにあたっては、事前に植生マットの運搬や播種用の種子採取を地元森林事務所等の応援により準備を進め、資材は木曽駒ヶ岳に至る稜線沿いの駒ケ岳管理センター（避難小屋）に仮置きをさせていただきました。

作業は駒ヶ岳ロープウエイ千畳敷駅から駒ヶ岳へ向かう途中にある天狗荘付近の標高約２，８７０ｍの登山道沿いで行い、小雨が降る中での作業ではありましたが、強風に見舞われることもなく無事に予定した植生マット敷設と種子播種を終えることができました。

植生マットの運搬

種子の採取

作業地付近には近年の植生復元箇所もあり、少しずつではありますが高山植物が回復している状況も見られることから、今後も関係機関と連携して高山植物の保護・復元に取り組んでいく考えです。

作業説明を受ける参加者

小雨の中での植生マット敷設作業

敷設完了

作業終了後に参加者全員で